

東京急行電鉄はイスラム教徒が多い東南アジアからの訪日客向けサービス強化する。イスラム教の戒律に沿った「ハラール」に対応した和食の冷凍食品工場を福岡県内に

東急「ハラール」の和食

新設。東京・渋谷を中心に沿線のホテルなどで提供する。将来は運営権を取得した仙台空港など全国に販売地域を広げる。

子会社が月産7万5千食の生産能力を持つ工場を3月に

食品専用の包丁など調理器具を用意する負担を減らす。賞味期限は1年間。

販売価格は4品のセットで1食500円前後。まずグル

ープの東急ホテルズ（東京・渋谷）に納入する。2018

空港・ホテル、訪日客向け

年度までに50品目に増やし、年5億円の売上高を目指す。調理中に他の食材と混じらないようにできるハラール食品専用の小型キッチンも開発・提供する。

インドネシアやマレーシアなどからの訪日客は増加傾向で、東急電鉄は本拠地の渋谷エリアへの来訪者も増えるとみる。さらに、運営権を取得した仙台空港でも東南アジアを結ぶ航空路線を誘致する計画も持つ。ハラール対応できるホテルや飲食店を増やして相乗効果を出す。